

### 3 - 3 1973年1月～2月の房総南東沖の群発地震について

#### On the Earthquake Swarm of Southeast off the Boso

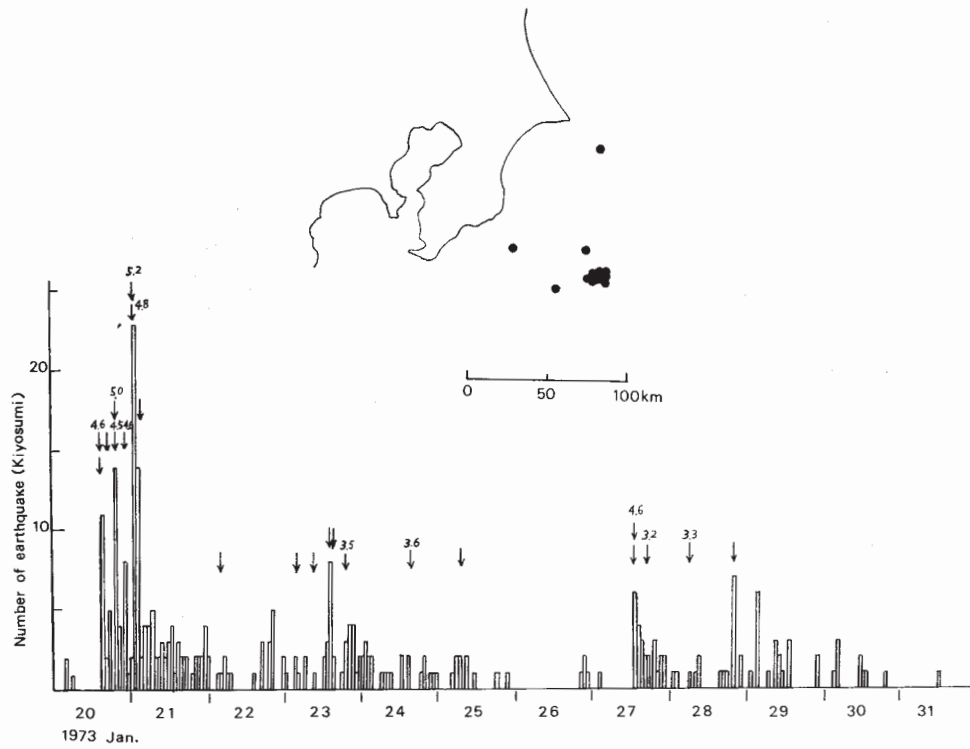
#### Peninsula for January ~ February, 1973

気象庁 地震活動検測センター  
SAMC, Japan Meteorological  
Agency

1973年1月20日から2月にかけて第1図のように房総南東沖で地震が群発した。図中の地震回数は東京大学地震研究所の清澄の観測値で、矢印で示したものが気象庁観測網で観測されたもの、矢印の上の数字は地震のマグニチュード、同図の上の分布図はその震央分布を示したものである。図からもわかるように、1月20日15時05分(M=4.6)から21日01時55分にかけて顕著な活動があり、館山では約10時間の間に震度Ⅱが2回、震度Ⅰが3回計5回の有感地震を観測した。こういう比較的短かい間に地震が集中して発生する地震の起こり方は、第2図のように房総東方沖で発生したことがあり、この時は房総半島と東京湾沿岸に多少の被害があった。

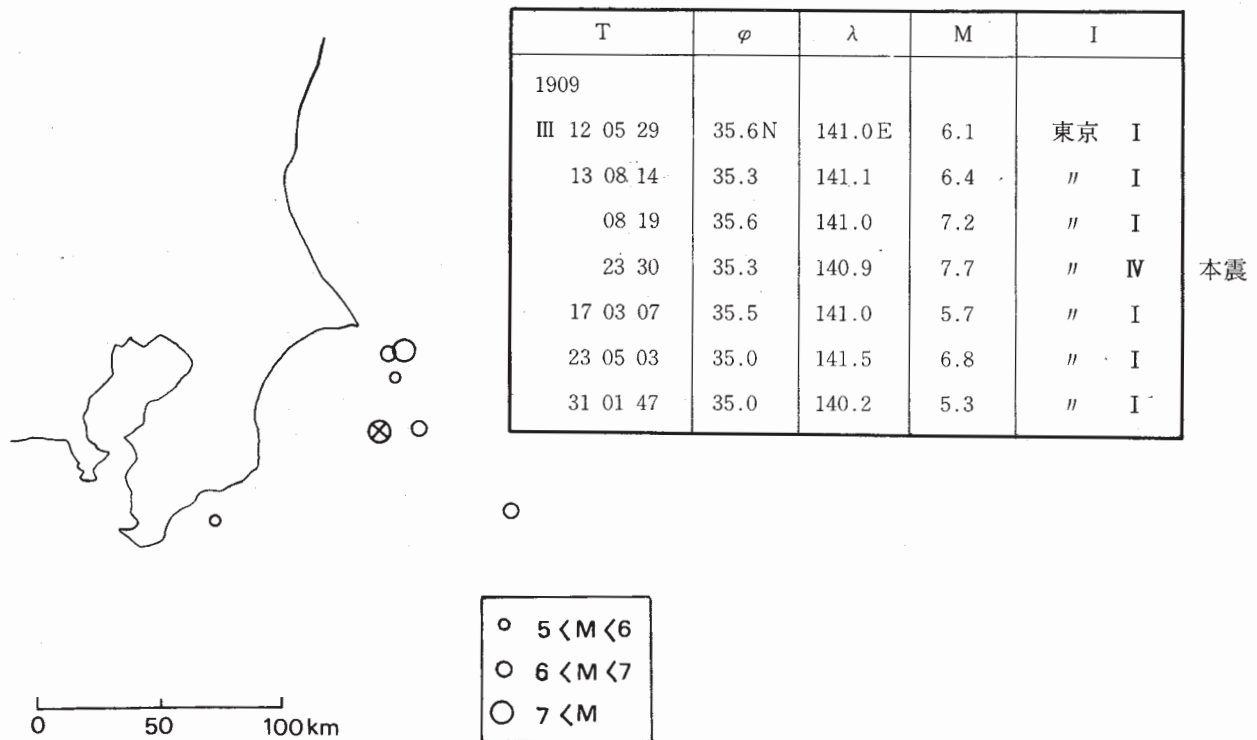
特に今回は第3図のように地震の群発域がここ数十年ほとんど地震の発生していない空白地帯でもあるので、数十年ぶりに発生した群発地震が、どのような経過を辿るか注目して観測にあたった。結果としては、1月21日01時30分のM=5.2を最大規模とする地震の群発で終わったが、同地域の地震が1909年の場合も、今回の場合も規模の違いはあるが、同じような起こり方をしていることは注目する必要があるであろう。

なお、1909年の地震の発生域は第3図からもわかるように、その後地震の発生が少なく地震活動の空白地帯の一つとなっている。



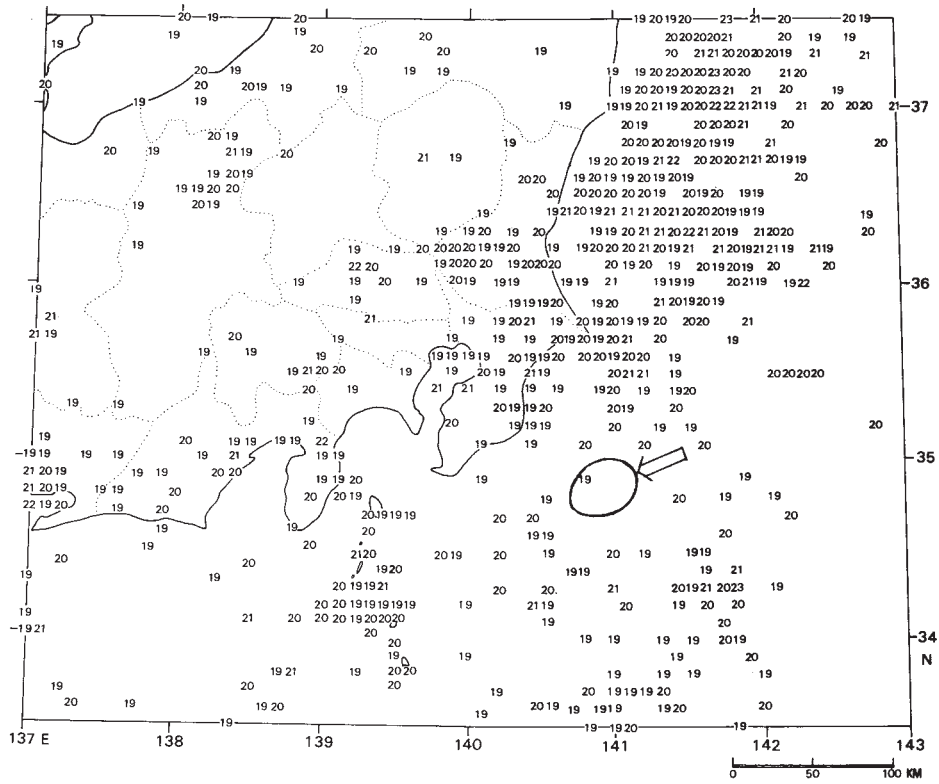
第1図 1973年の群発性地震の日別回数と震央分布図

Fig. 1 Hour frequency of swarm earthquakes, January 20-31, 1973 and the distribution of epicenters



第2図 1909年の房総東部の地震の震央分布図

Fig. 2 Distribution of epicenters of swarm earthquakes, March 12-31, 1909



第3図 関東地方の地震の放出エネルギー (  $\text{Log } E$  ) の分布図 ( 1926 ~ 1972,  $M \geq 4.8$ ,  $H \leq 60 \text{ km}$  ) と今回の群発性地震の発生域

Fig. 3 Distribution of energy ( $\text{Log } E$ ) released by earthquakes in Kanto district (1926-1972,  $h \leq 60 \text{ km}$ ,  $M \geq 4.8$ ) and area of swarm earthquakes, January-February, 1973